



ポーポキは黄色い花が大好き！いま、ポーポキのおうちのまわりにたくさんの黄色い花が咲いているからお散歩がうれしい！みなさんもうれしいことがあるといいね。

Popoki's Hot News!

ポーポキのピース・ブック3！

ポーポキのピース・ブックシリーズの3冊目、

『ポーポキ、元気って、なに色？』がきました！

お近くの本屋さん、出版社エピック (<https://bookway.jp/epic/>)、神戸YMCA、ポーポキ・ピース・プロジェクトから入手できます。ご注文、およびご感想をお待ちしています。



「一言の平和」コーナー

ポーポキのお友だちの から届いた平和：

「開発のために通り道が無くなってしまった「やまね」の為の通り道、「やまねブリッジ」を作った市長さんがいるらしい。なんて素敵なお市なんだろう。色々な人や動物たちがみんな幸せに暮らせるっていいね。」

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com)！



ぼくのFB頁ができました!!! ぜひ観てくださいね！

www.facebook.com/pages/Popoki-Peace-Projectポーポキピースプロジェクト/1384738958444817



いつもご協力、ありがとうございます！

『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』

(エピック 2012) はお陰様で好評です。ぜひ広めていただきたいと思います！

*神戸YMCAでも販売していますよ！ 本については、

<http://popoki.cruisejapan.com/monogatari.html> をご参照ください。



5月9日から11日、写真家の森住卓さんの案内によって福島県における原発事故の影響について考える機会がありました。ポーポキも同行し、新しい友だちをたくさんつくりました。印象は、数回にわたって紹介させていただきます。また、森住さんのインタビューは来月号に載せる予定です。

なぜ、震災から3年も経った今、福島に行こうと思ったのか。その理由は、自分の目で見て、その空気を吸って、全身で感じたいと思ったからです。ポーポキ友情物語活動は今後、福島でも展開するかもしれません。でも、今回の目的は活動を広げるためではありませんでした。まずはしっかり見つめたいと思ったのです。最初から原発事故取材している友人の森住さんをお願いして案内してもらいました。

最初に行った二本松市のお寺について報告します。お寺に幼稚園もあり、住職の連れ合い、佐々木るりさんと、「母レンジャー」仲間の遠藤さんと鈴木さんの三人と話をすることができました。佐々木さんらは、いろいろな活動を通して、子どもたちが少しでも安全に暮らせるように努力しています。お寺のつながりで県外の安全なところへ保養にも子供たちを連れて行っています。彼女らの子どもたちへの深い思いに感動しました。

佐々木さんらと2時間以上も話しました。その中から印象に残ったことをほんの少し紹介しましょう。

- 震災以来、毎月の10日と20日に全国の約150か所(毎回50～200か所)以上から野菜などの食料が届きます。母レンジャーはそれを無料で子どもがいる家族へ配っています。食料としてだけではなく、送ってくれる人の思いを大切にしている、と語りました。どなたからでも、少ない量でも歓迎するというので、ポーポキ通信の読者のみなさんもぜひ、ご検討ください！
- 学校は子どもたちの安全を第一に考えていると思っていたが、現実はとてもきびしい。「今、放射能について話せないし、先生たちは言い出せない。放射能の線量が高いところへ学校行事で行こうとすることさえありました。」それを佐々木さんたちが証拠を示しながら闘って止めたが、とてもむずかしい。「今はみんながあきらめモードかな。だから、学校行事はお祭りとか、楽しいものばかりです。」
- 「震災を体験した人、していない人、そして放射能に対する態度で大きな溝ができています。それが日に日に広がっており、今は震災の話、放射能の話はできなくなっています。」
- 佐々木さんの娘は震災の当時4歳でした。今は小2。学校から帰ってきて、「お花見って、な～に？おかあさん、行ったこと、ある？」と聞いたそうです。自然環境が素晴らしいのに、放射能のため、外で自然に触れることがほとんどないので、小学校2年生になっても「花見」を体験したことがありません。この話を聞いて、私は泣きました。
- 「自然。本当は美しいもののなのに、こわい、きたないものだと子どもらに教えなければならない。松ぼっくりとかタンポポはさわれない。『このカエルは除染してあるから大丈夫だ』という。子どもたちは、お花を摘んできたら、親に見えないように玄関で自分のうしろに隠す。彼らはわかっているけど…。」

- 幼稚園では、80人の園児が学んでいます。裸足で芝生の上で遊んでいる子どもたちを見て、「神戸ではこういうふうに芝生の上で遊べる幼稚園は見たことがない」とよろこぶ私に対する返事に驚きました！「外の放射能を中に持ち込まないように、中と外を一体化して、全部裸足にしている」、と。

子どもと一緒に読んでほしいと言って、『ポーポキ、元気って、なに色？』を一冊おいてきました。佐々木さんはまず、素敵な本だねとよろこんでくれました。

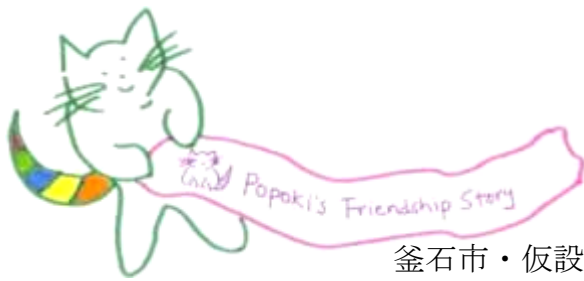
最後に布に書いていただきました。説明しながら母レンジャーのマークを描きました。

佐々木さん、遠藤さん、鈴木さん、ありがとうございました！いっぱい考えさせられました。

この日は、ずっと考えました。「常識」とはなんでしょう？佐々木さんたちのことを自分に置き換えてみました。私は元気を失うとき、外でいっぱい息を吸って、運動して、好きな花や植物あるいはねこを探します。大好きな自然が私の友だちでなくなったらどうする？？？答えが見つかりません。でも、私たちの生活がいかに自然環境に依存しているかということを確認できました。

左下：左：佐々木さん 右下：線量計と幼稚園





* ポーポキのインタビュー *

釜石市・仮設住宅での「詩人」との出会い

人知れず「元気」を支えてきたことばたちに仮設住宅で出会いました

はやしにゃん

「元気」を支えることばを、あなたは自分で紡いでいますか？ 東日本大震災被災地の仮設住宅で、一人の人間の「元気」を支え続けてきた「詩」に出会いました。

平野ナカ子（昭和 16 年生まれ）さんとの出会いは、2014 年 5 月 2 日、神戸大学の東北ボランティアバスの活動として岩手県釜石市の桜木町仮設住宅の集会所に入ったときです。お茶っこや足湯や手芸をする活動ですが、その日訪れた住民お



平野ナカ子さん（左）

二人のうちの一名が平野さんでした。落ち着いた深紅のシャツをお召しになり、物静かに、このあたりは「虹がきれいに見えます」と話しかけられました。「虹がですか、虹はきれいですね」とお応えしているうちに、虹の詩を書いてみたんですとご自分の詩を誦んじはじめられたのです。詩を書かれるんですかとお聞きしてみると、震災前から苦しい生活のなかで、だれに伝えることもなく、自分だけのために詩を書いてこられたと言うことでした。書くといっても、実際に

虹
波瀾万丈の日々は
若さとともに過ぎていった
七十二歳の私は
泣くこともなく
苦しむこともない
自由の新天地にいるのだから
絵を描いて
詩を書いて
虹のように明るく
虹のように美しいところになりたい
虹の魅力は無限であり
神秘であるから

はノートに筆記しているわけではなく、平野さんの頭の中にあるだけです。しかも、忘れてしまうことさえあるとのことでした。以下のような平野さんの暮らしぶりを聞くにつけ、凜とした人生を感じさせる平野さんの「今」が、自分の詩を支えにしていることに、感動を禁じ得ませんでした。詩とはこういうことばたちのことを指すのだろうと思いました。何の縁でか、平野さんの詩を、この日このときに聞くという偶然が、人生の不思議さを感じさせました。厳しい暮らし向きのなかで、だれにも発せられることのない詩があり、その詩に触れることができた、そのような言葉に触れる

この世に咲いた花
どんな花でも
美というものがある
それは人間でも同じこと
顔に美がなければ
ここに美がある
それを引き出すと出せないかのちがいである
人間というものは
人を恋したり
こころのなかの幸運のきざしを感じたとき
顔にあらわれてくるものである
それは何にもたとえようのない
美しさである
仏様の仏像から燦然と降りそそぐ

ことができたという感動です。

半生

酒乱の夫と一緒にあった。夫が生きている間は憎くて憎くて仕方がなかったが、夫の死後、いとおしい思いだけが募る。夫は四十二歳で屋根から転落してそのままも膜下出血で突然亡くなった。四人のこどもを残して。当時、船にのって海でアワビやウニなどを竿で採る内海の仕事をしていた。船が波で動くのもあって自分が採るのが下手なので、夫が何度も怒ることがあって、それでもうまいかなかったりといった思い出がこの頃にある。その後、水産加工場の冷蔵庫の仕事（イカの冷凍の倉庫仕事など）などのきつい仕事をしてきた。おかげで女の手ではないようなごつい、曲がった指になった。その後は、看護師や介護職を仲介する埼玉の法人をたよって、東京で付き添い（介護職）の仕事をあちらこちらの病院などでしてきた。給料がいいので東京に行ったが、眠れない仕事なのでつらかった。入所してくるのは大変な人だったので、仕事そのものもきつかった。東京にはいい人もいた。生きるためにいろんな仕事をして自分の手は黒くてゴムのようにごついが、娘たちの手は夫に似てするするして白くて細い。関節がつぶれてしまって、指先も曲がっている。だから人前で、手は出さないようにしている。

詩について

今は桜がきれいな季節だが、桜や花そのものを詩に書いたことはない。きれいではあるが、詩にしようという気にはならなかった。震災のことも詩には書けなかった。同僚に自分の詩を披露することはなく、自分だけのために「書いて」*きた。子どもたちは自分の詩には関心がないので伝えていない。

黄金の箱
人はこの世に生をうけたとき
神様から小さな黄金の箱をもたされてくる
その箱は
目には見えないふしぎな箱
めったに開けることのできない黄金の箱
努力と忍耐と思いやりのこころと辛抱という鍵によって
開く箱
神様は宇宙の果てから見守っている
人間に必要な全部の条件がかなったとき
小さな黄金の箱をめざして
神様はエネルギーをおくってくる
まばゆいばかりの金のひかりを
そのときはじめて
黄金の箱がひらかれる
人はそのとき
しあわせに満ちて
地球上に生まれた幸福を感じるだろう

震災のとき

当時は釜石市嬉石に住んでいて、生命保険から借りていた毎月返済する3万円を入金するために郵便局に行っていた。時間もないのでスーパーで買い物をせず、目の前に来たバスにそのまま乗って郵便局に行ったが、もしそのバスに乗っていなければおそらく自分の今はなかっただろうと思う。郵便局からは歩いて家に帰ったが、バッグを家において外に出たとき、

立ってられないような地震が来て、あわてて家に戻って二階まで上がって戸締まりをしていると、皆が高いところまで逃げているのが見えたので自分もそうした。海を見ていると、沖の方の波が来たと思ったら、引いていき、いつもと違うなと見ているうちに、わあーっと白い波が立ってきた。見る間に国道 45 号線の下の海岸に行く道路に、青い波が入ってきた。はじめのバス、家からすぐ高いところに逃げたこと、この二度のタイミングがあって自分は助かった。わたしの鵜住居の姉は、防災センターに入って亡くなった。わたしは貧乏しても命だけは助けられた。平成 3 年に家は建てたけど、流された。借金だけは返していたので、あとはもう復興住宅に入れればいいと思っている。

金魚の詩「金之助」について

金魚は、孫が縁日で金魚掬いで得た金魚。その金魚が大きくなった。金のように輝く金魚があまりにきれいなので、「金魚」と名づけたのだなと思い、詩を書いた。

※平野さんはご自分の詩を読んだ後、必ず「と書いてきたんです」と言う言葉で結びます。

金之助

わたしの父は東京生まれ
太田道灌の末裔である

金魚を金之助と名づけたことを
人は不思議に思うだろう

わたしの父は新之助

だから金魚を金之助と名づけた

水槽の中の金之助は

きらきらと輝いている

わたしの宝物

たなごのような大きさである

金之助はわたしが見えているのだろうか

と思ったとき

小さなえさが見えているのだから

大きなわたしが確実に見えていると悟った

金之助はわたしの宝物

今日も美しいからだをくねさせながら泳いでいる

天の神様がこの金之助もおつくりになったのだろうか

亡き母を偲んで

空は無限にひろがっている

亡き母は空のかなたにいろのだろうか

紫の雲にのり

金色に輝く

菩薩さまになつていろのだろうか

会いたい

無性に今日、我は

母のころのなかを全部理解できた

おろかな我のために九十三歳の生命を閉じた

母のころになかに我が住んでいたことを

無条件に愛してくれた母に

ここから感謝する

二度とこの世に

すがたを現すことのない

無限の愛をくれた母に

涙してしまう我である



ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 72

今月のテーマは、眼のストレッチ！



- 1.いつものように、背筋を伸ばし、自分を細く見せながらちゃんと座りましょう。
- 2.座ったままで目を大きく開いて頭を動かさずに目だけ左へ、そして右へ。交互に動かしましょう。
- 3.次は、上と下です。できるだけ大きく動かしましょう。
- 4.最期はななめです。右上と左下、右下と左上、交互に動かしてみてね余裕があれば八の字の形にも挑戦してください！
- 5.できましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！

お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

一緒にいかが？

次回のポー会 6月27日(木) 神戸YMCA 19:00～ Rm. 306

6.1 ポーポキ at 灘チャレンジ！ポーポキのブース、ミニステージ、展示！10:00～16:00
神戸市灘区都賀川公園

6.13 ポーポキと一緒に平和と健康を考えるワークショップ 大阪アクティヴスタジオ
18:30～20:00 <http://kc-i.jp/event/>

7.12 ポーポキ at こどもの里 大阪市西成区 10:00～12:00

8.5 ポーポキと一緒に平和を考える 国際理解教育・開発教育研修会 JICA関西

8.6 ポーポキはヒロシマを忘れない！ シャドー&スカイブ

ポーポキの友だちからの知らせ

アフガニスタン産レーズンの輸入販売 (CODE)

*ぶどう畑再生支援プロジェクトにより、ぶどうの収穫量はみるみる増加しました。日本の皆さまにもこれをぜひ召し上がっていただきたい、もっとアフガニスタンのことを知っていただきたいという思いから、ミールバチャコットの農家がつくったレーズンを輸入し、熊本市の(特活)日本フェアトレード委員会のご協力で製品化・販売しています。収穫したぶどうを天日干しにした自然のままのやさしい甘みが好評です。経費を除いた収益はアフガニスタン支援に使わせていただきます。ご家庭用はもちろん、ギフトにもぜひお求め下さい。委託販売も受け付けています。※詳しくは <http://code-jp.org/afghanistan/index.html>

Popoki in the News

ポーポキ通信のバックナンバー: <http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ! <http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』(貝原加奈 2014.4.25 28面)
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』(2013.8.23 朝刊 地域経済 8面)
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』(2013.8.7 朝刊 22面)
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひとと抄」『読売新聞』(2013.2.16 夕刊 4面)
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』 2012.10.29 (「今、平和を語る」、夕刊、1面)
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に 9 条がある」NO : 66 2012 年 5 月 12 日[子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60 メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』 2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」斎藤雅志 『神戸新聞』 2012.1.19 (伝える 1・17 3・11、22面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peae? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing”(Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 「『ポーポキ、平和って、なに色?』の背後にあるもの」(連載) とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑮(パレスチナについて)『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる!」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapecacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色? ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色?』」「私のいち押し」奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第 35 号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なに色? ポーポキのピース・ブック 2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか?」 RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組をクリック。番組 CH の 6CH をクリック。
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会『世界人権宣言』ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 1 O 500 円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは?」 Kumamoto YMCA News 10 Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」 2008.10.8. 10 面





私にとってのポーポキ

早瀬麻子

ポーポキちゃんと同じでヨガが大好きな私。だから、ポーポキのポガコーナーはいつも楽しみ♪深呼吸・笑い・リラックス。太陽の下で、思いっきり身体をのばしてゆっくりと美味しい空気を胸にいっぱい吸い込んでじっくり自分の内なる声を聴きます。人と考え方が違って、自分に自信がなくなっても、ポーポキはいつも「そのままでもいいんだよ」って受け入れてくれる。そんな存在。いろんな考え方や感じ方があってもいいし、全く違ったタイプでもお互いを認めあうことができれば争いなんて起こらない。わかっていてもなかなかできないそんなことをいつも思い出させてくれる。大好きなさとニャンやロニャン、ポーポキと出逢えて幸せ。彼らといると自然に笑顔になれる。私もいろんな価値観を認め、人を笑顔にできるそんな存在でいたいな♪広い空と海でつながる世界中のすべての人達が、互いに多様性を認め合い平和な気持ちになれたらいいと思う。そしてこれからポーポキを通じてどんな人たちとの輪が広がるのかわくわくしている。ポーポキいつも応援してくれてありがとう。これからもよろしくね♪



さらにご協力ください！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック 3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011 年に起こった東日本大震災をきっかけに活動をしており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を 2012 年 1 月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動が続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.com へお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)

<http://popoki.cruisejapan.com>



郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一円 1500 円 何円でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!!